

お茶の水女子大学の行方

「お茶の水女子大学よ、どこへ行く？」いま、私たちは、時々こんな問いを発してみる。余りにも先行き不透明で行く手の見えにくい昨今だからだ。何しろ、わが国の高等教育に關するグランドデザインが不確かな状況のなかで、独立行政法人化という設置形態の変化を迫られているのだから・・・しかし、にもかかわらず、私たちは、日々怠りなく前に向かつて歩き続ける。時間は、抗い難い激しさで私たちを押し進め、立ち止まることも後戻りすることも許さないからである。したがって、明確な将来を指し示すことは困難ながら、いま、私たちがとりあえず描き始めている本学の未来図と、現在着手しつつある改革の方向性について、幾つかのことを述べてみることにしよう。

お茶の水女子大学の誕生は、わが国近代の訪れとその時を共有する。学制公布間もない明治八（一八七五）年が、創設の時だからである。私たちは、いま、わが国女子教育の歴史そのものである一二六年のこの伝統を、かけがえない知的財産と見なし、その上に立って、本学を、今後とも女性たちの新しい知の創出の場として位置づけようと企図している。人と地球の危機が叫ばれ、女性特有の豊かな感性と、生活者としての着実な意識に大きな期待が寄せられて、「女性の時代」という呼び声も耳に著しい今日、長年の女子教育の蓄積を生かしつつ、彼女たちの資質能力の

さらなる開発を目指し、彼女たちのためにより相応しい教育環境を提供したいと願うからである。

本学は、これまで、女性研究者・指導者の育成を目標とし、高度な専門性を備えて指導的立場で活躍し得る人々を、とりわけ、教育界に多く送り出してきた。しかし、これからは、それら従来型の研究者養成に加えて、時代の要請に応え得る専門性の開発を目指し、同時に個々人の希望と適性に即応した新しい教育を実施しようと、特設プログラムの立ち上げを急いでいる。今後は確実に必要とされるであろう「夢の職種」の開拓と、養成コースの策定はその一端と言えよう。しかも、それらは、現役学生にのみ適用されるものではなく、学窓を離れた後に再び世に出る道を模索



している女性たちの前にも開かれたコースとしたい。本学を、すべての女性たちにとって、各人の可能性が目覚めさせられ、彼女たちの「真摯な夢の実現の場所」として機能させたいのである。

国立大学として保護された存在形態から離れ、厳しく自己責任を問われることとなる今後、本学が選択を志向している小規模女子大の道は決して平易ではない。しかし、私たちは、いま、茨の道かも知れないこの選択肢をも視野に入れて、力強くその一歩を踏み出そうとしている。多くの誌友たちに、ご理解とご支援をお願いする次第である。

募金のお願い

「コイン一つでお茶大を支えよう！」

こんなスローガンの下に、新しい募金活動がスタートします。独立行政法人化に向けて、準備開始の号砲の鳴ったいま、活動基金獲得のために、主として桜蔭会員中心に始められようとしているのです。「本当にコイン一つですか？」そう、五〇〇円コイン一つです。本当に！ただし、「毎月、確実に」そして「今後ズッツと継続して」というのが条件ですが・・・。

本誌を手に取りられた同窓生以外の誌友のなかからも、募金に参加してくださる方が現れることを期待してこんな一文を挿入しました。（虫がよすぎるでしょうか？）

でも、どうぞ、よろしく！

詳細は次号以降でお知らせします。